

高知県感染症発生動向調査（月報）

2025年2月

高知県感染症情報センター
高知県衛生環境研究所
TEL:088-821-4961 FAX:088-821-4696

全国情報

第6週(2月3日～)から第9週(～3月2日)までの4週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における上位6疾患の合計は82.63で、1月の4週換算値139.14と比べて減少した。減少した原因はインフルエンザの減少である。インフルエンザは11月8日に流行期に入り、12月になって一気に流行拡大したが1月以降は減少した。

新型コロナウイルス感染症について、全国と高知県の定点報告数を図1に示す。12月になって報告数は増加に転じたが大きな流行には至っていない。

1位は感染性胃腸炎で35.24（1月3位4週換算値18.13）と増加した。2位は新型コロナウイルス感染症で20.34（同2位24.11）と減少した。3位はインフルエンザで10.51（同1位83.32）と減少した。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で8.95（同4位7.24）、5位はRSウイルス感染症で4.50（同8位2.01）、6位は流行性角結膜炎で3.09（同7位 2.61）といずれも増加した。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	6週	7週	8週	9週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		7.39	7.70	10.32	9.83	35.24
2	新型コロナウイルス感染症		5.82	5.15	4.95	4.42	20.34
3	イ ン フ ル エ ン ザ		3.78	2.63	2.21	1.89	10.51
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.48	2.08	2.44	1.95	8.95
5	RS ウ イ ル ス 感 染 症		0.96	1.06	1.21	1.27	4.50
6	流 行 性 角 結 膜 炎		0.80	0.74	0.82	0.73	3.09

県内情報

1. 全国との対比（定点当たり報告数）

上位6疾患の県内における報告数の合計は67.18で1月の4週換算値186.75と比べて減少し、全国よりも少なかった（表2）。減少の原因はインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症とマイコプラズマ肺炎の減少である。1月の上位6疾患は次のとおりである。

1位は新型コロナウイルス感染症で21.37（同2位4週換算値35.29）と減少し、全国と同等だった。2位は感染性胃腸炎で19.64（同3位9.06）と増加したが全国よりも少なかった。3位はインフルエンザで10.82（同1位128.26）と減少したが、全国と同等だった。4位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で9.52（同4位6.59）と増加し全国と同等だった。5位は伝染性紅斑で3.32（同6位3.55）と横ばいであったが、全国よりも多かった。6位はマイコプラズマ肺炎で2.51（同5位4.01）と減少したが全国よりも多かった。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	6週	7週	8週	9週	計
1	新型コロナウイルス感染症		6.64	4.70	5.14	4.89	21.37
2	感 染 性 胃 腸 炎		3.40	3.72	6.52	6.00	19.64
3	イ ン フ ル エ ン ザ		5.23	3.59	1.50	0.50	10.82
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.84	2.44	2.56	1.68	9.52
5	伝 染 性 紅 斑		1.16	0.84	0.52	0.80	3.32
6	マ イ コ プ ラ ズ マ 肺 炎		1.00	0.38	0.75	0.38	2.51

図1 新型コロナウイルス感染症報告数
定点当たり報告数 ー全国と高知県ー

人

25

20

15

10

5

0

第9波

第10波

第11波

全国

高知県

2023年 第19週 第22週 第25週 第28週 第31週 第34週 第37週 第40週 第43週 第46週 第49週 第52週 第3週 第6週 第9週 第12週 第15週 第18週 第21週 第24週 第27週 第30週 第33週 第36週 第39週 第42週 第45週 第48週 第51週 第2週 第5週 第8週

5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月

年 月		オミクロン株																							計										
		BA. 2系統群																	BA. 5系統群		XEC系統					XEK系統									
		BA. 2系統	BA. 2. 86系統														BA. 2. 75系統		計	XBB系統	XBC系統	XDQ系統	CX系統	XEC .2		XEC .4	XEC .5	XEC .8	XEK						
KP. 1. 1.3	KP. 2	KP. 3	KP. 3.1	KP. 3.1.1	KP. 3.3	KP. 3.3.1	KP. 3.3.3	JN. 1	JN. 1.1 6	MC. 1	MC. 11	MC. 13	MC. 28	BN. 1	FK. 1	計	計	HW. 1		XDQ. 1	CK. 1														
2023	5															1		1	2																0
	6																	0	3															0	
	7																	0	7			1												0	
	8															6		6	32															0	
	9															5		5	25	3														0	
2024	10	1																1	9															0	
	11	6																6	2															0	
	12									1								13	1															0	
	1	25								2								27	9															0	
	2	37																37	4															0	
	3	11								1								12	1															0	
	4	2																2	0		6													0	
	5				1			2										3	0		5													0	
	6					1		6		3		1						11	0															0	
	7			2		6		30		16		1						55	0																0
	8					2		33		13								48	0																0
	9							7	1	2				1				11	0																0
10		1					2	6	1				1				11	0																0	
11									1								1	0																0	
12																	0	0																1	
2025	1					4	1								1		6	0									3	7	1	1		1	13		
	2					1							2				3	0</																	

2024年12月に「新生児におけるエコーウイルス11型（E-11）感染症の発生について（注意喚起及び情報提供依頼）、厚生労働省から日本医師会に対して通達した（<https://www.mhlw.go.jp/content/001345108.pdf>）。

さらに、本年2月6日には、E-11感染症の実態把握を目的に、厚労省は都道府県・保健所設置市に対して、積極的疫学調査の協力依頼を発出した（<https://www.mhlw.go.jp/content/001345107.pdf>）。対象は重症感染症を呈した3か月以下の乳児で、臨床検体すなわち①呼吸器由来検体（咽頭ぬぐい液等）、②消化器由来検体（ふん便や直腸ぬぐい液）、③血清、（④髄液）を衛生環境研究所に送付することとなっている。2024年に高知県ではE-11が5件検出されており、重篤化しやすい新生児感染例に注意する必要がある。

3. 主な疾患の発生状況

1) インフルエンザ

報告数 476名（1月 7,054名）。2023/24シーズンは3つのウイルス株（AH1pdm09、AH3NT、B/Victoria）が相次いで流行し、長期間続いた。2023年9月～2024年5月に23,022名が定点から報告され、過去10年間で最多だった。

2024/25シーズンは、12月に著増し、同時期としては過去10年間で2023年に次いで2番目に多い報告数だった。1月はさらに増加し、同時期としては2019年、2018年に次いで3番目に多い数であった。1月の第2週をピークに減少に転じ、その後は週ごとに減少している。今季は短期間での爆発的流行であった。

県下全域から報告があり、幡多、中央西、中央東がとくに多かった。ウイルスはA型H1pdm09が1月15件、2月に2件検出され主たる流行株となっている。ほかにはAH3 NTが1件、B/Victoriaが1件検出されている。

2) 新型コロナウイルス感染症

報告数 940名（1月 1,941名）。図1に2023年5月以降の県下定点報告数を示す。年末年始の患者数増加が恒例となっていたが、今季は大きな流行とはならなかった。

県下全域から報告があり、須崎、中央西、幡多、高知市、中央東、安芸の順に多かった。県下で採取されたウイルス株の解析結果を表3に示す。2023年10月以降はすべてオミクロン株のBA.2系統群に分類されるウイルスである。2024年12月～2月の3カ月間で、新たに登場したXEC系統のXEC.2が12件、XEC.5 5件、XEC.4 4件、XEC.5、XEC.8、また、XEK系統のXEKが各1件検出され、BA.2系統群のBA.2.86系統に分類されるKP.3.1.1が5件、MC.1が2件、KP.3.3とMC.28が各1件検出された。

3) 咽頭結膜熱

報告数 17名（1月 10名）。2023年10月～2024年3月は、同時期として過去10年間で最多の報告数が続いたが、5月以降は例年ペースに落ち着いている。須崎、幡多、中央東、高知市から報告された。その他の診断の患者からAdenovirus 2が1件検出された。

4) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 238名（1月 206名）。2023年10月以降は、多い報告数が続き、2024年は過去10年間で最多だった。2025年1月以降は平年並みに落ち着いている。県下全域から報告があり、中央西と幡多でとくに多かった。細菌は検出されていない。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症が多発しており、2024年は第52週（12月29日）までに全国から計1,888名が報告され、最多を更新した。高知県でも同年に7名が報告された。2025年は第7週までに全国で258人、高知県で1人報告されており、報告のペースは鈍っていない。

5) 感染性胃腸炎

報告数 491名（1月 283名）。新型コロナウイルス感染症流行が始まった2020年以降は少ない数で推移している。県下全域から報告があり、幡多、安芸、高知市、須崎がとくに多かった。感染性胃腸炎とその他の診断の患者から各1件ずつNorovirus GII NTが検出された。

6) 水痘

報告数 7名（1月 19名）。ワクチン定期化の効果で少ない数で推移しているがゼロにはならない。高知市から6名、中央東から1名が報告された。

7) 手足口病

報告数 5名（1月 28名）。2024年は4月に流行が始まり、6月と10月にピークをつくり二峰性流行となったがようやく収束した。主たる流行株はCoxsackievirus A16、同A6と同A10の3種類であり、過去10年間で最も大きい流行規模となった。中央東から3名、須崎と高知市から各1名が報告された。Enterovirus71が1月に続いて2月も1件検出されており、昨年10月以降で計6件目の検出となった。

8) 伝染性紅斑

報告数 83名（1月 111名）。2020年9月以降は一桁の報告数が続いていたが、2024年10月以降に増加し、

2025年1月と2月は過去10年間で同時期として最多だった。Human parvovirus B19が貧血素因のある者に感染すると重症貧血を起こし（aplastic crisis）、妊婦に感染すると胎児水腫と流産の原因となる点で臨床的に重要である。高知市、中央東、安芸＝須崎、幡多から表記の順に多く報告された。伝染性紅斑と診断された6歳男児から human parvovirus B19が1件検出された。

9) 突発性発疹

報告数 19名（1月 17名）。想定内の推移である。

10) ヘルパンギーナ

報告数 0名（1月 1名）。2022年は過去10年間で最小、翌2023年は最大の流行となった。2024年は5月から流行が始まり6月をピークとする標準的な規模であり、12月に流行は収束した。今季は同診断の者からエンテロウイルスが検出されておらず原因ウイルスは不明だった。

11) 流行性耳下腺炎

報告数 2名（1月 3名）。2019年以降は一桁の報告数で推移している。高知市から2名が報告された。

12) RSウイルス感染症

報告数 53名（1月 15名）。2021年は過去10年で最大の流行だったが、2024年は2021年、2017年に次ぐ3番目の流行だった。2021年から4年連続で夏の流行となった。2024年は4月から流行が始まり、8月をピークにして収束しないままに翌1月に増加に転じた。県下全域から複数の報告があり、とくに多かったのは高知市である。類似のウイルスであるhMPVも県下で流行している。RSウイルスは検出されていない。

13) 流行性角結膜炎

報告数 3名（1月 2名）。2019年以降は一桁の報告数で推移している。

14) 細菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 0名（1月 0名）。2017年以降は年間一桁の報告数で推移していたが、2024年は11名に達した。

15) 無菌性髄膜炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 2名（1月 0名）。従来は年間20～30名台の報告数で推移していたが、2017年以降は1～9名/年で推移しており、2024年は3名だった。2月に小児2名の報告があった。病原体は検出されていない。

16) マイコプラズマ肺炎（基幹定点の報告疾患）

報告数 20名（1月 40名）。2024年は過去10年間では最大の流行となったが、11月以降は減少に転じている。幡多、中央東、高知市から表記の順に多く報告された。流行細菌株のマクロライド感受性については確定していないが、臨床現場ではマクロライド系抗菌薬が効きにくい印象がある。

基幹定点の月報疾患

17) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 31名（1月 38名）。2024年は287名/年と過去10年間では2019年の327名/年に次いで2番目に多い報告数だった。1月は同時期として過去10年間で最多、2月は2016年に次いで2番目に多い報告数である。中央東、高知市でとくに多く報告された。

18) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 1名（1月 0名）。70歳以上の高齢者が高知市から1名報告された。2015年以降は、年間0～2名の報告にとどまっており、2024年は2名だった。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

【参考】

全数報告

年別全数報告数（令和7年2月）

類型	病名	報告年															
		2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
2	結核	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	73	53	62	8
	計	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	60	65	73	53	62	8
3	コレラ	1															
	細菌性赤痢							2									
	腸管出血性大腸菌感染症	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9	1		3	7	5	1
	腸チフス						1				1						
	パラチフス																
	計	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10	1	0	3	7	5	1
4	A型肝炎	3					3	1			2					1	
	E型肝炎	1		1							2	1		1			
	オウム病								1								
	Q熱																
	サル痘														1		
	重症熱性血小板減少症候群				3	11	3	7	5	5	9	6	4	8	10	10	
	つつが虫病	2	5	8	3	3		4	11	2	3	3	1	5	11	3	
	デング熱	1			3	2	1				2						
	日本紅斑熱	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	23	16	12	16	9	
	日本脳炎	1															
	マラリア		1								1				1	1	
	レジオネラ症	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	8	8	8	7	8	1
	レプトスピラ症		4	2	1				1						1		
	計	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	41	29	34	47	32	1
5	アメーバ赤痢	2	2	3		7	3	2	5	3	3		1	5	1	1	
	ウイルス性肝炎	3		3		1			2	1	1	2	2	2	1		1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症					7	19	21	22	21	20	10	5	12	9	11	1
	急性弛緩性麻痺									1	2				1	2	
	急性脳炎	1	3	1		1	1	1	1		2	1	1	2			
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3				2			2	1	1	3		1	1		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	3		1		3	5	6	2	2	5	4	1	6	1
	後天性免疫不全症候群	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	6		6	2	4	
	ジアルジア症		1	1					1								
	侵襲性インフルエンザ菌感染症					1	5	3	4	7	3	1	1	3	7	9	1
	侵襲性肺炎球菌感染症				1	4	12	16	18	14	22	11	9	6	12	18	4
	水痘（入院例に限る）						2	1	1	3		3	3	3	1		1
	髄膜炎菌性髄膜炎																
	梅毒	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	35	96	51	62	40	11
	播種性クリプトコックス症							1	3	5				4	3	1	
	破傷風	1	1	1		4	3	3	1		2	3	1	3	1	1	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症						1		1	1							
	百日咳									173	172	35	3	9	7	4	9
	風しん			4	9	1				3							
	麻しん																
	計	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	112	127	111	109	97	29
動物	鳥インフルエンザ		1														
	計		1														
総計		201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	214	221	221	216	196	39

類型	病名	報告月		総計
		1月	2月	
2	結核	4	4	8
3	腸管出血性大腸菌感染症		1	1
4	レジオネラ症	1		1
5	ウイルス性肝炎		1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症		1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症		1	1
	侵襲性肺炎球菌感染症	4		4
	水痘（入院例に限る）	1		1
	梅毒	4	7	11
	百日咳	1	8	9
総計		15	24	39

高知県感染症情報 月報（61定点医療機関）

2025年

2月

定点名	保健所 疾病名	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・COVID-19	インフルエンザ	21	118	137	54	16	130	476	7,054	3,376
	新型コロナウイルス感染症	58	182	260	127	130	183	940	1,941	2,140
小児科	咽頭結膜熱		5	5		3	4	17	10	77
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	22	90	57	17	48	238	206	668
	感染性胃腸炎	55	52	196	15	42	131	491	283	598
	水痘		1	6				7	19	8
	手足口病		3	1		1		5	28	19
	伝染性紅斑	2	8	68		2	3	83	111	2
	突発性発疹	1	1	12	1	3	1	19	17	24
	ヘルパンギーナ								1	13
	流行性耳下腺炎			2				2	3	1
	RSウイルス感染症	2	8	30	3	3	7	53	15	2
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			3				3	2	2
STD	性器クラミジア感染症			7			2	9	8	5
	性器ヘルペスウイルス感染症						1	1		
	尖圭コンジローマ			1			1	2	1	
	淋菌感染症								1	1
基幹	細菌性髄膜炎									1
	無菌性髄膜炎			1			1	2		
	マイコプラズマ肺炎		2	6			12	20	40	6
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）									
	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）			2				2	1	1
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	5	24			1	31	38	27
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症			1				1		
	薬剤耐性緑膿菌感染症								1	
計		144	407	852	257	217	525	2,402	9,780	6,971
前月		634	1,993	3,260	1,269	851	1,773			
前年同月		236	1,473	2,679	713	502	1,368			
小児科定点数		2	6	9	2	2	5			

高知県感染症情報 月報（61定点医療機関）

2025年

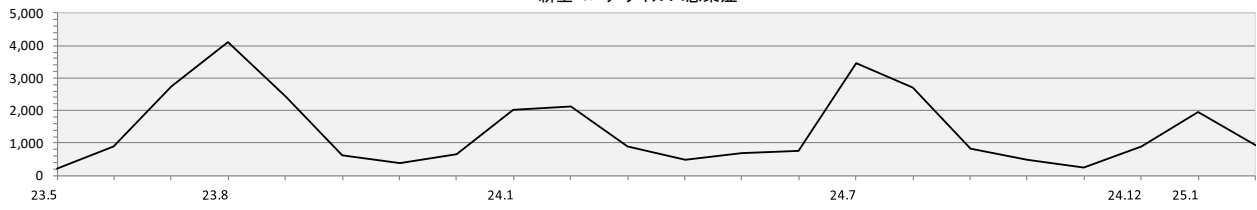
2月

定点当たりの人数

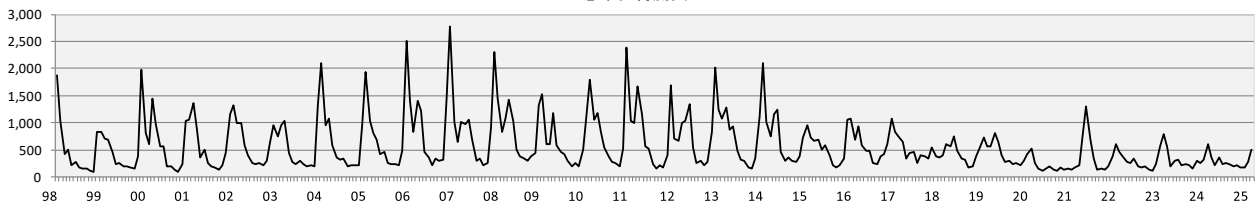
定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前月	前年同月
内科・COVID-19	インフルエンザ		5.25	11.80	9.78	13.50	4.00	16.26	10.82	160.32	76.74
	新型コロナウイルス感染症		14.50	18.20	18.57	31.75	32.50	22.89	21.37	44.11	48.64
小児科	咽頭結膜熱			0.84	0.55		1.50	1.00	0.68	0.40	2.96
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2.00	3.66	9.99	28.50	8.50	12.00	9.52	8.24	25.70
	感染性胃腸炎		27.50	8.66	21.78	7.50	21.00	32.75	19.64	11.32	23.00
	水痘			0.17	0.66				0.28	0.76	0.31
	手足口病			0.50	0.11		0.50		0.20	1.12	0.73
	伝染性紅斑		1.00	1.33	7.56		1.00	0.75	3.32	4.44	0.08
	突発性発疹		0.50	0.17	1.33	0.50	1.50	0.25	0.76	0.68	0.92
	ヘルパンギーナ									0.04	0.50
	流行性耳下腺炎				0.22				0.08	0.12	0.04
	RSウイルス感染症		1.00	1.33	3.33	1.50	1.50	1.75	2.12	0.60	0.08
眼科	急性出血性結膜炎										
	流行性角結膜炎				3.00				1.00	0.66	0.66
STD	性器クラミジア感染症				3.50			1.00	1.50	1.33	0.83
	性器ヘルペスウイルス感染症							0.50	0.17		
	尖圭コンジローマ				0.50			0.50	0.33	0.17	
	淋菌感染症									0.17	0.17
基幹	細菌性髄膜炎										0.13
	無菌性髄膜炎				0.20			1.00	0.26		
	マイコプラズマ肺炎			2.00	1.20			12.00	2.51	5.01	0.76
	クラミジア肺炎（オウム病は除く）										
	感染性胃腸炎（病原体がロタウイルスであるものに限る）				0.40				0.25	0.13	0.13
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		1.00	5.00	4.80			1.00	3.88	4.75	3.38
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				0.20				0.13		
	薬剤耐性緑膿菌感染症									0.13	
小児科定点分計			51.75	46.66	73.88	83.25	72.00	87.65	68.79	232.15	179.70
前月			168.25	205.56	241.18	325.00	228.25	235.40			
前年同月			77.25	157.54	211.93	193.50	165.50	198.77			

注目される疾患の月別推移

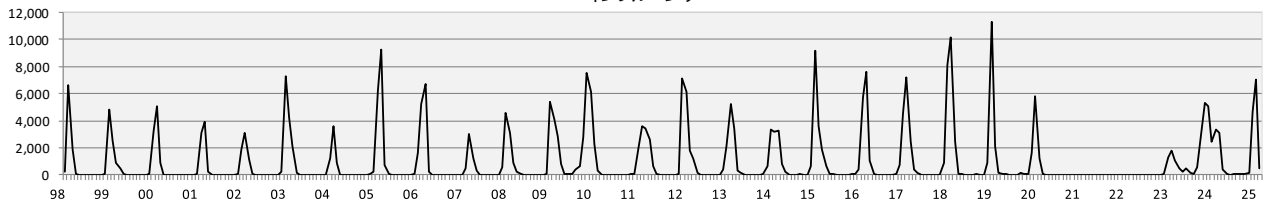
新型コロナウイルス感染症



感染性胃腸炎



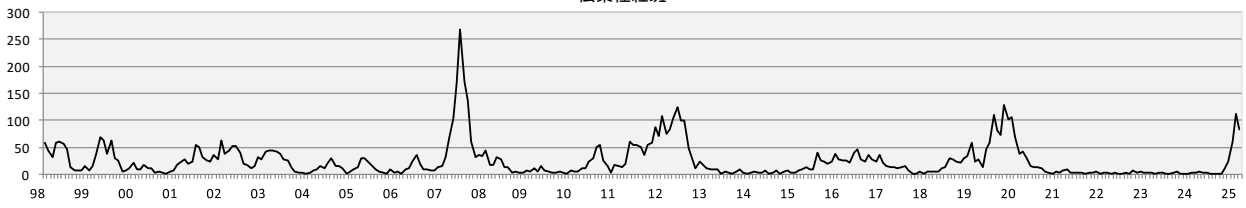
インフルエンザ



A群溶血性レンサ球菌感染症



伝染性紅斑



マイコプラズマ肺炎



高知県感染症情報（月報）

2025年2月

検査情報

ウイルス、細菌の分離状況

令和7年2月はウイルス61件、細菌1件の搬入があり、そのうち ウイルス21件の病原体を検出し、令和7年1月に搬入された検体でウイルス22件を検出した。検出ウイルスの内訳は、Adenovirus 2 1件、Cytomegalovirus 1件、Echovirus 18 1件、Enterovirus 71 1件、Human herpes virus 6 4件、Human herpes virus 7 1件、Human metapneumovirus 1件、human parvovirus B19 1件、Influenza virus A H1pdm09 2件、Influenza virus A H3 NT 1件、Influenza virus B/Victoria 1件、Norovirus GII NT 2件、Rhinovirus 4件、SARS-CoV-2 22件であった。

ウイルス、細菌の分離状況

No	年齢	性別	臨床診断名	臨床症状	検査材料名	採取日	ウイルス、細菌の検出
1	89	女	新型コロナウイルス感染症	38℃,	唾液	12/18	SARS-CoV-2(解析不能)
2	85	男	新型コロナウイルス感染症	38℃,	唾液	12/19	SARS-CoV-2
3	77	女	新型コロナウイルス感染症	37℃,	唾液	12/22	SARS-CoV-2(解析不能)
4	90	女	新型コロナウイルス感染症	38℃,	喀痰	12/30	SARS-CoV-2
5	67	男	新型コロナウイルス感染症	39℃,	喀痰	1/5	SARS-CoV-2
6	59	男	新型コロナウイルス感染症	40℃,	喀痰	1/6	SARS-CoV-2
7	3	女	新型コロナウイルス感染症	39℃,	ぬぐい液	1/8	SARS-CoV-2
8	19	男	新型コロナウイルス感染症	38℃,	ぬぐい液	1/9	SARS-CoV-2
9	75	男	新型コロナウイルス感染症	38℃,	唾液	1/9	SARS-CoV-2(解析不能)
10	1	女	新型コロナウイルス感染症	39℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1/11	SARS-CoV-2
11	14	男	新型コロナウイルス感染症	39℃,	唾液	1/14	SARS-CoV-2
12	10	男	新型コロナウイルス感染症	40℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1/16	SARS-CoV-2
13	1	男	新型コロナウイルス感染症	38℃,	ぬぐい液	1/16	SARS-CoV-2
14	15	女	新型コロナウイルス感染症	39℃, 咳嗽,	唾液	1/18	SARS-CoV-2
15	69	男	新型コロナウイルス感染症	37℃,	唾液	1/18	SARS-CoV-2
16	57	女	新型コロナウイルス感染症	上気道炎,	鼻咽頭ぬぐい液	1/21	SARS-CoV-2
17	2か月	男	新型コロナウイルス感染症	38℃, 咳嗽,	ぬぐい液	1/21	SARS-CoV-2
18	30	女	新型コロナウイルス感染症	38℃,	鼻咽頭ぬぐい液	1/21	SARS-CoV-2
19	29	女	新型コロナウイルス感染症	上気道炎,	鼻咽頭ぬぐい液	1/22	SARS-CoV-2(解析不能)
20	45	男	新型コロナウイルス感染症		鼻咽頭ぬぐい液	1/24	SARS-CoV-2
21	56	男	新型コロナウイルス感染症	上気道炎,	鼻咽頭ぬぐい液	1/27	SARS-CoV-2
22	3	女	新型コロナウイルス感染症	39℃, 下痢,	ぬぐい液	1/27	SARS-CoV-2(解析不能)
23	3	男	—	39℃, 嘔吐, 腹痛, 咳嗽,	ふん便	1/30	Adenovirus 2 Norovirus GII NT
24	5	男	手足口病	38℃, 発疹,	ぬぐい液	1/30	Enterovirus 71 Human herpes virus 6
25	6	男	伝染性紅斑	37℃, 発疹,	ぬぐい液	1/31	human parvovirus B19 Human herpes virus 7
26	7	女	インフルエンザ	39℃, 咳嗽,	ぬぐい液	2/1	Influenza virus A H1pdm09
27	10	女	インフルエンザ	40℃, 咳嗽,	ぬぐい液	2/1	Influenza virus B/Victoria
28	3	男	インフルエンザ	39℃,	ぬぐい液	2/3	Influenza virus A H1pdm09
29	3	男	インフルエンザ	39℃, 咳嗽,	ぬぐい液	2/3	Influenza virus A H3 NT
30	2	男	突発性発しん	41℃, 発疹,	ぬぐい液	2/4	Human herpes virus 6
31	1	女	上気道炎	39℃, 嘔吐, 上気道炎, 発疹,	ぬぐい液	2/7	Human metapneumovirus
32	12	女	ライノウイルス感染疑い	咳嗽,	ぬぐい液	2/12	Rhinovirus
33	3	男	手足口病	発疹,	ぬぐい液	2/12	Rhinovirus
34	2	男	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	2/15	Human herpes virus 6
35	3	男	伝染性紅斑	発疹,	ぬぐい液	2/15	Human herpes virus 6
36	6	男	結膜炎	—	ぬぐい液	2/19	Rhinovirus
37	5	男	咽頭結膜熱	結膜炎,	ぬぐい液	2/19	Rhinovirus
38	2	男	感染性胃腸炎	40℃, 下痢, 嘔吐,	ふん便	2/19	Norovirus GII NT
39	7か月	女	不明発疹症	発疹,	ぬぐい液	2/21	Cytomegalovirus Echovirus 18

病原体検出状況

臨床診断名	病原微生物	2024年												2024年	2025年		2025
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計	1月	2月	年総計
A群溶血性レンサ球菌咽頭	<i>Streptococcus pyogenes</i> T1			1		3	1						1	6			
	<i>Streptococcus pyogenes</i> TB3264				1									1			
	<i>Streptococcus pyogenes</i> Untypable			1	1									2			
	計		1	2	1	3	1						1	9			
RSウイルス感染症	Respiratory syncytial virus												1	1			
	計												1	1			
咽頭結膜熱	Adenovirus 2					1						1		2			
	Echovirus 11											1		1			
	Rhinovirus											1		1		1	1
	計					1						3		4		1	1
インフルエンザ	Adenovirus 1							1						1			
	Coxsackievirus A6						1							1			
	Influenza virus A H1pdm09	1									2	6	31	40	15	2	17
	Influenza virus A NT												1	1	1		1
	Influenza virus A H3 NT	3	1							3				7	3	1	4
	Influenza virus B/Victoria	3	3	3	7									16		1	1
	Parainfluenza virus 3		1											1			
	SARS-CoV-2	1	1											2			
	計	8	6	3	7		1	1		3	2	6	32	69	19	4	23
感染性胃腸炎	Astrovirus NT												1	1			
	Echovirus 11							1		2				3			
	Norovirus GI NT	1	2	1										4			
	Norovirus GII NT	4		2		2	1			2				11		1	1
	Rhinovirus							1						1			
	Rotavirus group A G2			1										1			
	Sapovirus genogroup unknown		1											1			
	計	5	3	4		2	1	2		4			1	22		1	1
新型コロナウイルス感染症	SARS-CoV-2	42	45	25	9	9	9	66	16	25	14	5		265	22		22
	計	42	45	25	9	9	9	66	16	25	14	5		265	22		22
水痘	Varicella-zoster virus														1		1
	計														1		1
手足口病	Adenovirus 1								1					1			
	Adenovirus 2							1			3			4			
	Adenovirus 5				1									1			
	Coxsackievirus A6				6	8	8	6				1		29			
	Coxsackievirus A10								2	2				4			
	Coxsackievirus A16								9	9	10	10	2	40			
	Coxsackievirus B3												1	1			
	Cytomegalovirus		1		1	1	2	1		4	1			11			
	Echovirus 3								1					1			
	EnterovirusD68									1	1			2			
	Enterovirus71		1								2	1		4	1	1	2
	Epstein-Barr virus					2	3	2		2	4		1	14	1		1
	Human herpes virus 6				1	2	1	3		2	1		2	12		1	1
	Human herpes virus 7				1	1	3	2	1	4	8	4	1	25			
	human parvovirus B19					1		1		1	2	1	1	7			
	Rhinovirus								1	8	12	12	4	37		1	1
	RhinovirusA10								1					1			
	RhinovirusA20									1				1			
	RhinovirusA58								3	2	1			6			
	RhinovirusC										5			5			
	RhinovirusC2					2	1							3			
	RhinovirusC42				1									1			
	計		2		11	17	18	16	19	36	50	29	12	210	2	3	5

臨床診断名	病原微生物	2024年												2024年 総計	2025年		2025 年総計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	2月	
伝染性紅斑	Coxsackievirus A16												1	1			
	Epstein-Barr virus																
	Human herpes virus 6															1	1
	Human herpes virus 7												1	1		1	1
	human parvovirus B19															1	1
	Rhinovirus	1												1			
	計	1											2	3		3	3
突発性発疹	Coxsackievirus A16											1		1			
	Echovirus 11											1		1			
	Human herpes virus 6														1	1	2
	Rhinovirus											1		1			
	計											3		3	1	1	2
ヘルパンギーナ	Herpes simplex virus 1					1								1			
						1								1			
無菌性髄膜炎	Human herpes virus 6		1											1			
	Norovirus GII NT		1											1			
			2											2			
その他	Adenovirus 2						1	2				1		4		1	1
	Adenovirus 41									1				1			
	Coxsackievirus A6					2	1							3			
	Coxsackievirus A10								1					1			
	Coxsackievirus A16												1	1			
	Cytomegalovirus			1	1			1						3		1	1
	Echovirus 11										1			1			
	Echovirus 18															1	1
	Enterovirus71	1											1	2			
	Epstein-Barr virus	1	1	1	3	4					1			11			
	Human herpes virus 6			2	1	3		1		1	1		1	10		1	1
	Human herpes virus 7		1		2				1	1			2	7			
	Human metapneumovirus			2										2		1	1
	human parvovirus B19				2							1		3	1		1
	Influenza virus A H1pdm09												1	1			
	Influenza virus B/Victoria				1									1			
	Norovirus GII NT				1									1		1	1
	Parainfluenza virus 1				1									1			
	Parainfluenza virus 3					3								3			
	Respiratory syncytial virus A									1				1			
	Respiratory syncytial virus B														1		1
	Rhinovirus			1		3	2	3	1	1	1	1	3	16	1	2	3
	RhinovirusA10								1					1			
	RhinovirusA38									1				1			
	RhinovirusA58									1				1			
	RhinovirusA78							1						1			
	<i>Escherichia coli</i> OUT afaD								1			1		2			
	<i>Escherichia coli</i> astA, aggR (+)														1		1
	<i>Staphylococcus saprophyticus</i>					1								1			
	<i>Staphylococcus simulans</i>					1								1			
	計	2	2	7	12	17	4	8	5	7	4	4	9	81	4	8	12
総計		58	61	41	40	50	34	93	40	75	70	50	58	670	49	21	70

インフルエンザの抗体保有状況

感染症流行予測調査事業におけるインフルエンザ感受性調査では、毎年、インフルエンザ流行開始前の抗体保有状況を調査している。

わが国におけるインフルエンザワクチンは、従来、A(H1N1)亜型、A(H3N2)亜型、B型(ビクトリア系統あるいは山形系統)の3つのインフルエンザウイルスをワクチン株とした3価ワクチンが用いられてきた。しかし、近年はB型の二系統が同シーズンに流行する傾向が世界的にあり、わが国においても2015/16シーズンからB型の二系統を含む4価ワクチンが使用されている。

令和6年度は、2024/25シーズンのワクチン株に用いられた次の4種類のウイルス株について調査した。

- a) A/Victoria(ビクトリア)/4897/2022 [A(H1N1)pdm09 亜型]
- b) A/California(カリフォルニア)/122/2022 [A(H3N2) 亜型]
- c) B/Phuket(プーケット)/3073/2013 [B型(山形系統)]
- d) B/Austria(オーストリア)/1359417/2021 [B型(ビクトリア系統)]

1 A型のHI抗体保有率

A/Victoria(ビクトリア)/4897/2022 [A(H1N1)pdm09 亜型]は、前シーズンの2023/24シーズンから選定された株である。表1及び図1に、年齢群別HI抗体価及び抗体保有率を示した。本調査株の感染防御に有効な40倍以上の抗体保有率は、全ての年齢群で40%以下であったが、昨年度と比較して抗体保有率は増加している。

(令和5年度：1.9%→令和6年度：21.7%)

A/California(カリフォルニア)/122/2022 [A(H3N2) 亜型] は今シーズン新たに選定された株である。表2及び図1に年齢群別HI抗体価及び抗体保有率を示した。40倍以上の抗体保有率は、全ての年齢群で40%以下であった。

表1 A/Victoria(ビクトリア)/4897/2022 [A(H1N1)pdm09 亜型]の抗体保有状況

年齢群 (歳)	HI抗体価									合計	40倍以上 抗体保有率
	<10倍	10倍	20倍	40倍	80倍	160倍	320倍	640倍	1280倍≧		
0～4	6	0	0	0	0	2	0	0	0	8	25.0%
5～9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0%
10～14	13	2	8	3	6	1	3	0	0	36	36.1%
15～19	18	3	14	7	8	1	1	0	0	52	32.7%
20～29	15	11	9	4	7	2	0	0	0	48	27.1%
30～39	36	13	10	4	2	2	0	0	0	67	11.9%
40～49	18	3	0	2	0	1	0	0	0	24	12.5%
50～59	21	3	4	4	1	0	0	0	0	33	15.2%
60～	35	9	12	8	2	1	1	0	0	68	17.6%
合計	163	44	57	32	26	10	5	0	0	337	21.7%

表2 A/California(カリフォルニア)/122/2022 [A(H3N2) 亜型] の抗体保有状況

年齢群 (歳)	HI抗体価									合計	40倍以上 抗体保有率
	<10倍	10倍	20倍	40倍	80倍	160倍	320倍	640倍	1280倍≧		
0～4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0.0%
5～9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0%
10～14	13	4	6	3	3	4	3	0	0	36	36.1%
15～19	27	0	6	3	5	7	3	1	0	52	36.5%
20～29	20	7	8	6	5	1	1	0	0	48	27.1%
30～39	33	6	8	8	8	3	1	0	0	67	29.9%
40～49	10	8	2	2	1	1	0	0	0	24	16.7%
50～59	21	5	3	1	2	1	0	0	0	33	12.1%
60～	26	10	11	11	4	4	1	0	1	68	30.9%
合計	159	40	44	34	28	21	9	1	1	337	27.9%

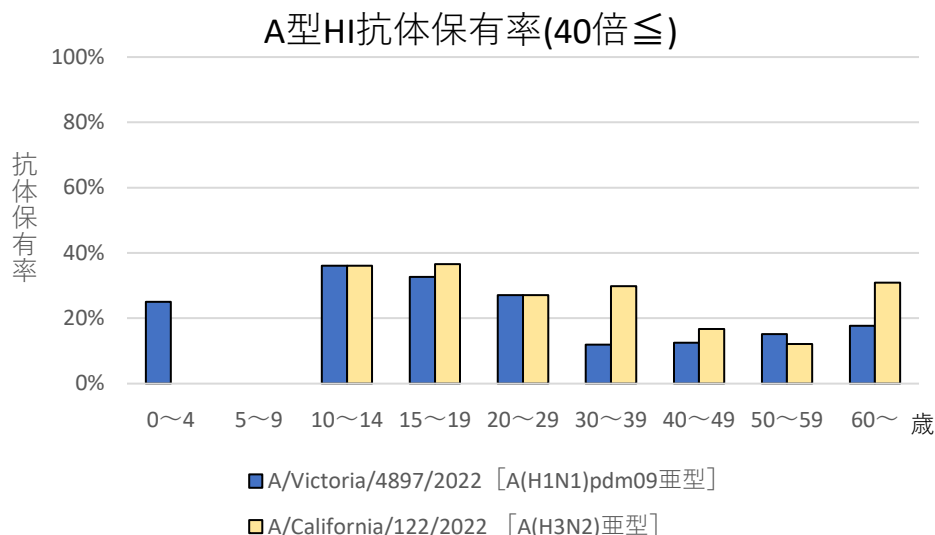


図1 A型HI抗体保有状況

2 B型のHI抗体保有率

B/Phuket(プーケット)/3073/2013 [B型(山形系統)]は、2015/16 シーズンからワクチン株として10シーズン連続で選定されている。表3及び図2に年齢群別HI抗体価及び抗体保有率を示した。本調査株の40倍以上の抗体保有率は、全年齢群で80%以下であった。なお、全体の抗体保有率は昨年度と比較してやや低かった。

(令和5年度: 57.1%→令和6年度: 55.8%)

B/Austria(オーストリア)/1359417/2021 [B型(ビクトリア系統)]の年齢群別HI抗体価及び抗体保有率を表4及び図2に示した。40倍以上の抗体保有率は、全年齢群で50%以下であった。

表3 B/Phuket (プーケット) /3073/2013 [B型(山形系統)] の抗体保有状況

年齢群 (歳)	HI抗体価									合計	40倍以上 抗体保有率
	<10倍	10倍	20倍	40倍	80倍	160倍	320倍	640倍	1280倍≦		
0～4	6	1	1	0	0	0	0	0	0	8	0.0%
5～9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0%
10～14	8	5	9	9	4	1	0	0	0	36	38.9%
15～19	4	11	8	12	12	5	0	0	0	52	55.8%
20～29	0	4	7	14	11	5	6	1	0	48	77.1%
30～39	2	4	11	15	22	11	2	0	0	67	74.6%
40～49	3	4	5	7	2	2	1	0	0	24	50.0%
50～59	3	5	8	9	3	4	1	0	0	33	51.5%
60～	9	16	14	21	5	2	0	1	0	68	42.6%
合計	36	50	63	87	59	30	10	2	0	337	55.8%

表4 B/Austria (オーストリア) /1359417/2021 [B型(ビクトリア系統)] の抗体保有状況

年齢群 (歳)	HI抗体価									合計	40倍以上 抗体保有率
	<10倍	10倍	20倍	40倍	80倍	160倍	320倍	640倍	1280倍≦		
0～4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0.0%
5～9	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0%
10～14	15	6	6	5	2	2	0	0	0	36	25.0%
15～19	27	12	8	2	3	0	0	0	0	52	9.6%
20～29	15	10	11	2	8	2	0	0	0	48	25.0%
30～39	31	15	10	7	4	0	0	0	0	67	16.4%
40～49	8	8	4	3	0	0	1	0	0	24	16.7%
50～59	10	5	3	4	6	3	2	0	0	33	45.5%
60～	13	13	14	13	10	3	2	0	0	68	41.2%
合計	127	70	56	36	33	10	5	0	0	337	24.9%

B型HI抗体保有率(40倍≦)

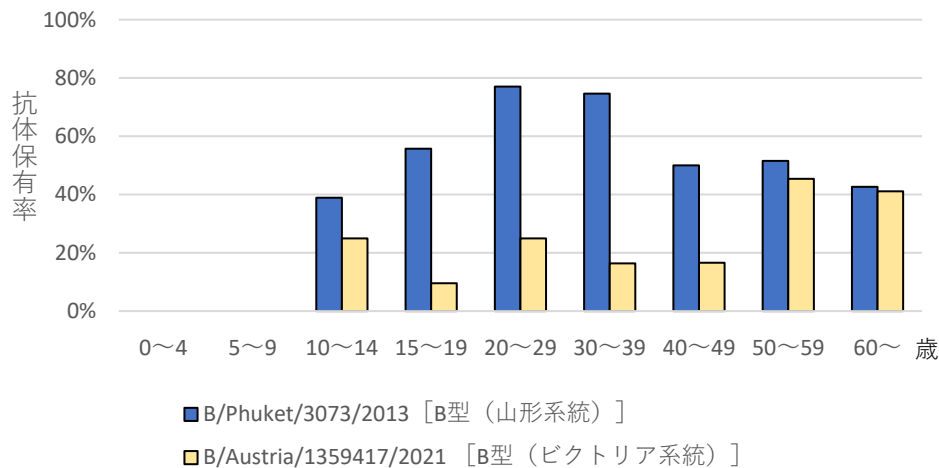


図2 B型HI抗体保有状況

3 まとめ

2024/25 シーズンは、A(H3N2)亜型 のワクチン株が変更となり、A(H1N1)pdm09 亜型、B 型山形系統、B 型ビクトリア系統では変更がなかった。

令和 6 年度におけるインフルエンザの抗体保有率が 40 倍以上の割合は、B 型(山形系統) が 55.8%と一番高く、次いで A(H3N2)亜型 27.9%、B 型(ビクトリア系統) 24.9%、A(H1N1)pdm09 亜型 21.7%であった(表 1, 2, 3, 4)。A(H1N1)pdm09 亜型 は調査株の中で最も抗体保有率が低く、現に、2024/25 シーズンに全国、また県内で検出されたインフルエンザウイルスの割合は A(H1N1)pdm09 亜型が最も多かった¹⁾。

2023/24 シーズンのインフルエンザは過去 10 年で最大の流行であったが、2024/25 シーズンはそれを上回る流行となっている²⁾。2023/24 シーズンの流行の主流は A 型で、2024 年第 5 週頃以降に B 型(ビクトリア系統)へ入れ替わった¹⁾。2024/25 シーズンの流行の主流は A 型で、2023/24 シーズンと同様の傾向は見られていないものの、B 型(ビクトリア系統)の抗体保有率は調査株の中で 2 番目に低いため、今後の流行状況に注意する必要がある。特に、その抗体保有率の低い 0～9 歳群において注意が必要である。

個人の予防策として、インフルエンザワクチン接種、マスクの適切な使用、手洗い・手指衛生の徹底、適切な換気の実施等が勧められる。

参考文献

- 1) 国立感染症研究所. “インフルエンザウイルス分離・検出速報 2024/25 シーズン”. 国立感染症研究所, <https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html>, (参照 2025-3-10)
- 2) 高知県衛生環境研究所. “感染症情報 2024 (週報・月報)”. 高知県衛生環境研究所. 2025-01-08. <https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024011500036/>, (参照 2025-3-10)

麻しんと風しんの抗体保有状況

令和6年度の感染症流行予測調査事業では、県内の337名(男性127名、女性210名)に協力を得て、抗体保有状況^(注1)を調査した。

1 麻しん

表1及び図1に酵素抗体法(EIA法)による年齢群別麻しん抗体価、抗体保有率及びワクチン接種率を示した。抗体陽性^(注2)であるEIA抗体価16以上の抗体保有率は全体で36.2%であった。また、ワクチン接種率は全体で81.5%であった。

定期接種対象年齢群別にみると16以上の抗体保有率は、5～9歳の年齢群で100%であった。16未満の抗体保有率は、5～9歳の年齢群を除き全ての年齢群で80%を下回った。なお、抗体価の評価には一般社団法人日本環境感染学会の「医療関係者のためのワクチンガイドライン」を参照した。

国は「麻しんに関する特定感染症予防指針」を定め、定期予防接種の接種率を1期2期ともに95%以上にすることを目標としているが、高知県は令和5年度第1期、第2期ともに95%に届いていない。2008年以降、県内に患者の報告はないものの、今後もワクチンの有用性への理解を深める等予防に関する適切な情報提供を行うため、継続した疫学的調査により年度ごとの状況を把握することが重要である。

(注1) 抗体：からだに入ってくる細菌やウイルスに抵抗して、毒を出さないようにしたり、感染するのを防いだりする物質(出典：国立国語研究所)

(注2) 抗体陽性：発症予防ができると考えられる抗体があること

表1 麻しん抗体保有状況

年齢群 (歳)	麻しんEIA抗体価						合計	抗体保有率		ワクチン 接種率
	<2	2	4	8	12	16≤		<16	16≤	
0～4	6	0	0	0	0	2	8	75.0%	25.0%	37.5%
5～9	0	0	0	0	0	1	1	0.0%	100.0%	100.0%
10～14	2	6	17	6	2	3	36	91.7%	8.3%	100.0%
15～19	4	16	15	6	5	6	52	88.5%	11.5%	100.0%
20～29	4	4	8	12	6	14	48	70.8%	29.2%	83.3%
30～39	4	5	17	18	11	12	67	82.1%	17.9%	92.3%
40～49	0	4	3	3	3	11	24	54.2%	45.8%	100.0%
50～59	0	0	3	6	5	19	33	42.4%	57.6%	58.3%
60～	0	1	3	6	4	54	68	20.6%	79.4%	0.0%
合計	20	36	66	57	36	122	337	63.8%	36.2%	81.5%

(※) ワクチン接種歴不明者を除き算出。

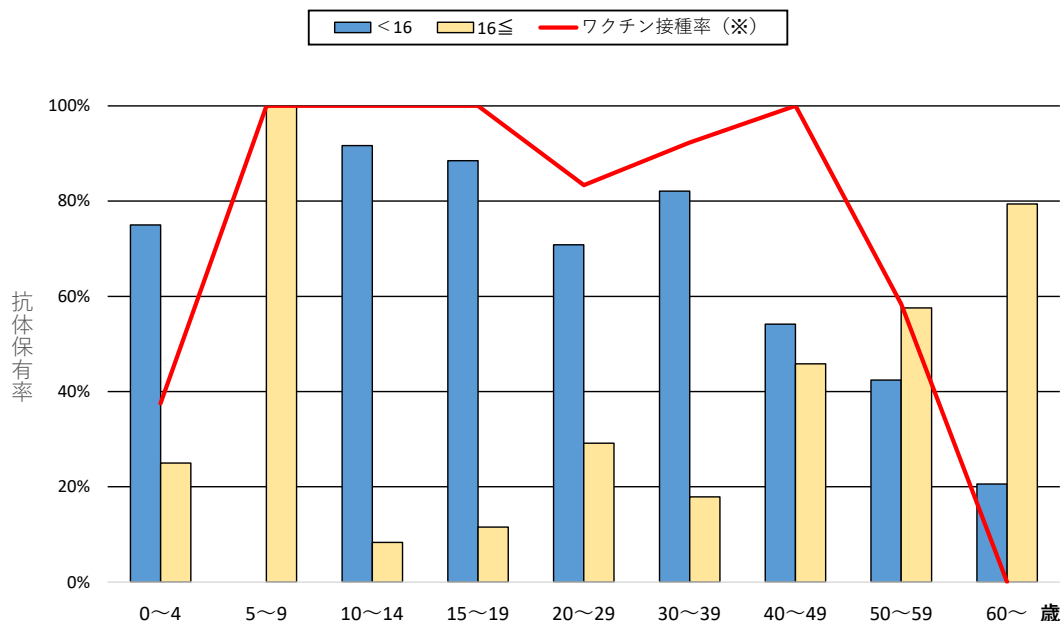


図1 麻しん抗体保有状況

2 風しん

表 2、図 2 及び図 3 に赤血球凝集抑制法(HI 法)による年齢群別風しん HI 抗体価、抗体保有率及びワクチン接種率を示した。

抗体陽性である 8 倍以上の抗体保有率は男性 92.9%、女性 95.2%、全体で 94.4%であった。感染予防に必要と考えられる 32 倍以上の抗体保有率は男性 71.7%、女性 76.7%、全体で 74.8%であった。また、ワクチン接種率は男性 81.8%、女性 77.8%、全体で 79.4%であった。

年齢群別にみると 8 倍以上の抗体保有率は男女共に、0～4 歳を除き年齢群で 80%以上であった。32 倍以上の抗体保有率は、8 倍以上の抗体保有率と比較して男女ともにすべての年齢群で低かった。

国は、2018 年 7 月以降の風しんの感染拡大を受け、2019 年 2 月から 2025 年 3 月までの間、追加的対策として定期接種を受ける機会がなかった世代の男性を対象に抗体検査とワクチン接種を推進している。抗体保有率を向上するためには、先天性風しん症候群のリスクについての啓発や職場健診等を活用した積極的な予防接種勧奨が重要である。

表 2 風しん抗体保有状況

年齢群 (歳)	性別	風しんHI抗体価									合計	抗体保有率				ワクチン 接種率 (※)
		<8倍	8倍	16倍	32倍	64倍	128倍	256倍	512倍	1024倍≤		8倍≤	32倍≤	8倍≤	32倍≤	
0～4	男	4	0	0	0	1	0	0	0	0	5	20.0%	20.0%	25.0%	25.0%	40.0%
	女	2	0	0	0	0	0	1	0	0	3	33.3%	33.3%			33.3%
5～9	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%
	女	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	100.0%	100.0%			100.0%
10～14	男	0	3	5	8	1	2	0	0	0	19	100.0%	57.9%	97.2%	66.7%	100.0%
	女	1	1	2	6	6	1	0	0	0	17	94.1%	76.5%			100.0%
15～19	男	1	3	5	7	4	5	0	0	0	25	96.0%	64.0%	96.2%	53.8%	100.0%
	女	1	5	9	7	4	1	0	0	0	27	96.3%	44.4%			100.0%
20～29	男	0	0	3	3	5	2	0	0	0	13	100.0%	76.9%	100.0%	75.0%	80.0%
	女	0	1	8	9	10	3	3	1	0	35	100.0%	74.3%			83.3%
30～39	男	2	2	3	9	8	5	0	1	0	30	93.3%	76.7%	95.5%	80.6%	85.7%
	女	1	0	5	13	6	8	2	2	0	37	97.3%	83.8%			78.9%
40～49	男	0	0	0	1	2	0	0	0	0	3	100.0%	100.0%	91.7%	79.2%	0.0%
	女	2	2	1	2	7	3	1	1	2	21	90.5%	76.2%			50.0%
50～59	男	0	0	1	0	0	3	3	0	0	7	100.0%	85.7%	100.0%	93.9%	0.0%
	女	0	1	0	6	8	2	5	4	0	26	100.0%	96.2%			72.7%
60～	男	2	2	0	4	6	5	4	1	1	25	92.0%	84.0%	92.6%	83.8%	0.0%
	女	3	0	4	8	7	12	4	4	1	43	93.0%	83.7%			0.0%
合計	男	9	10	17	32	27	22	7	2	1	127	92.9%	71.7%	94.4%	74.8%	81.8%
	女	10	10	29	51	49	30	16	12	3	210	95.2%	76.7%			77.8%
	計	19	20	46	83	76	52	23	14	4	337	94.4%	74.8%			79.4%

(※) ワクチン接種歴不明の者を除き算出。

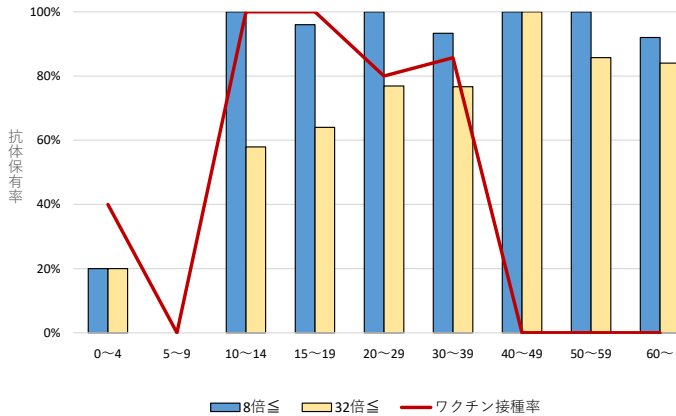


図2 風しん抗体保有状況 (男性)

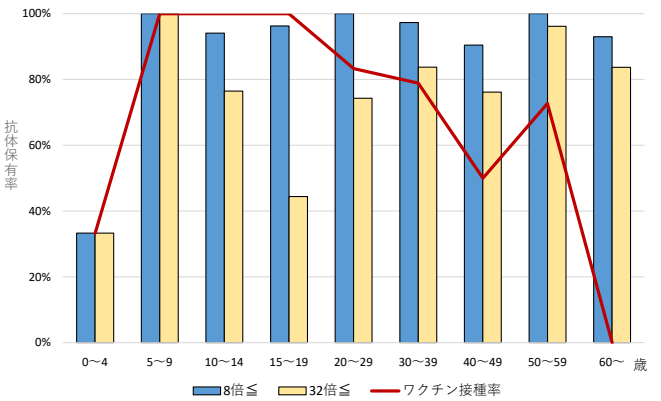


図3 風しん抗体保有状況 (女性)